

# ～90周年・100周年にむけて～ キャンパス整備計画進捗状況

事務局長 桃井 明男



すでに学報二〇〇六年七・八月合併号の二面、キャンパス整備計画の概要をお知らせしました通り、創立九〇周年（二〇〇八年）、続いて二〇〇周年（二〇一八年）に向けて、まず第一期基本計画の工事が始まりました。

最初に行った工事は、正門を入ると、すぐ右前方に見える老朽化が激しかった、六号館（東校舎・写真）の改修工事と耐震補強でした。

夫を言いますと六号館（東校舎）は、過去三回に亘って増築がされてきています。一九二七年に南側が竣工し、一九五一年に北側が加わり、そして一九五六年に東側が増築されて現在の建物になりました。そして一九九八年に文化庁登録有形文化財に登録されました。

改修工事に当たっては、登録有形文化財であることから外観を重視し、外壁は高圧の温水で洗って長年たまった汚れを落とし、塗装はもとの色に近い塗装を施し、屋根瓦も形状が似ている耐震性・耐風圧性の高い防災瓦にすっきり替え、生き返ったようになりまし

た。内部は、古い配管の撤去や露出線の引き直し、床面や窓枠の研磨と塗装、ドアの取替え等を行い、空調設備が一新されて以前に比べて明るく快適に活用できるようにになりました。

また、建物の耐震強度を高めるために、6112教室後方のガラス窓を耐震壁にし、更に地震の衝撃により

ガラスが飛散しないように窓ガラス面にはフィルムを貼り、耐震と安全面を強化しました。

特に改修工事で一番苦労したのは、レーモンド建築の特徴の一つである屋上小屋組でした。レーモンドは日本の伝統建築についても研究し、日本の伝統工法、材料を巧みに活かして、自分の建築作品で表現しました。六号館（東校舎）の屋上小屋組の屋根にもその特徴が良く現れております。今回の改修工事にあたっては、設計図がなかったため、解体と同時に現場で小屋組の詳細な寸法を測り、角度を割り出し、宮大工の巧みな技で屋上小屋組が見事に再現できました。

このようにして六号館の改修工事と耐震補強は、昨年の夏八月五日に着工し、九月二〇日に事故もなく工期通りに工事が完了しました。工事費（設計監理・税金含む）は二億二千五百万円。

引き続き新築建物として計画された新図書棟、集中管理センターの工事に現在取り掛かっております。新図書棟は五月に、集中管理センターは六月完成を目指して工事が着々と進められています。また、集中管理センターの工事にあわせて、安全面から正門を現在の位置から少し内側に移動して、正門前に溜留スペースを確保する工事を行います。その際、正門をレーモンドの初期時代につくられた門扉に復元します。

同時に今夏の五号館（旧東京）の取り壊しとキャンパス整備計画にそって新教室・研究室棟、新体育館棟の新築準備も始まり、安全で魅力あるキャンパスづくりの核心の工事に入っていきます。学校関係者の皆様へは多少の不便をおかけすることになりますが、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

## 旧東京大学の案内

☆同窓会国遊会日

4月28日(土)

13時～16時まで

旧東京の取り壊しを前に、卒業生・在校生とその同伴者を対象とする最後の見学会を開催致します。当日旧東京前にて受付を行います。（受付開始 当日12時30分）室内見学は当時の様子を残した一室のみ可能です。当日は大変混み合うことが予想されますので、二〇分毎に指定の順路で回ります。お待ち頂く場合などもございますが、よろしくご協力下さい。

（問合せ先）

☎03・5382・6317

（総務課）

謹弔

遠山清子氏（ごおやま・きよこ）

一月二十七日、ご逝去。六九歳。元本学教授。一九八二年短期大学部英語科に着任から二〇〇六年に現代文化学部地域文化学科を定年退職されるまで、二十四年にわたり熱心に教育にあたられた。また今年度は非常勤講師として勤められた。ご専門はアメリカ文学・比較文学。

福田敏一氏（ふくだ・かんいち）

一月七日、ご逝去。八三歳。東京大学名誉教授、元明治学院大学学長。一九七六年五月から一九七九年四月まで評議員として、本学のために尽力された。

◇

12月号2面「初代学長新藤戸権忠の命日に（サブタイトル）の、多摩公園は多摩公園の誤りでした。お詫言して訂正いたします。

## 東京女子大学学報

第60巻 2月号 通巻622号

定価 130円 年額 1,000円（送料共）

振替 00130-5-34872番

編集兼発行人 〒167-8586

東京都杉並区善福寺2丁目6の1

東京女子大学内 淡 晶子

http://www.twcu.ac.jp 電話 03-5382-6388

T166-0012 東京都杉並区和田1-14-13

印刷所 共立印刷株式会社